

平成26年度
自己評価報告書

平成27年8月3日

北海道農業専門学校

目 次

1 学校の理念、教育目標	1	基準10 社会貢献・地域貢献	13
2 平成26年度の重点目標と達成計画	2	4 平成26年度重点目標達成についての自己評価	14
3 評価項目別取組状況	3		
基準1 教育理念・目的・育成人材像	4		
基準2 学校運営	5		
基準3 教育活動	6		
基準4 学修成果	7		
基準5 学生支援	8		
基準6 教育環境	9		
基準7 学生の募集と受入れ	10		
基準8 財 務	11		
基準9 法令等の遵守	12		

1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>農業の実習を本位とし、真に徹底せる勤労教育をもって、心身を鍛練し、実際に即せる農業牧畜を習得せしめるにある。真の知識は体験によって得られるものであり、その真の知識にして始めて役立つのである。体験教育とは行いの教育であり、額に汗する教育である。今後の教育は、理論に偏重することなく、一つひとつ実際に基づき、単に頭だけのものではなく、体験にまで進を要するにある。</p>	<p>(1) 生産実習の徹底 よりよき農業の実践者は、常に生命体を相手とする農業生産の実際を通じて育成されるということを実現させるため、広く学校の農場を学習の場として利用する。その運営・経営については合理化に努めつつ、教職員及び学生が同じ生産目標を持って真剣に農作物および家畜の生産管理の徹底を図り、農場経営と学習の両立を図ることに努力する。本校での農業実習は講義を補完する意味での実習や試験研究的なものではなく、経営実習、労働実習ともいうべき性質の生産実習とする。</p> <p>(2) 実学の一致 生産実習が本校教育の中心となるが、学科授業はその実習に直結し、裏付けとなるように図り、学生が実際の体験で得た断片的知識を系統化させ、法則性を自ら発見させる環境を作る。この自らわかる努力をさせることを通じて深く考察し、創意し、進歩の契機を作る自主的知性と行動力を持った人間の育成を図る。</p> <p>(3) 自主的な学習意欲 習う、教えられるという学習意識を脱却し、自ら学びとるという進取の気概を持った人間、即ちわかる、知っている人間ではなく行動で示せる人間の育成に努力する。このため学校は学習環境の改善充実を図るとともに、教職員は、学生と一体となった生産活動の中から、学習に対する自覚を学生に促し、自主的学習の体制と雰囲気確立に努める。</p> <p>(4) 公共社会人としての自覚と規律 全寮制における生活は、その人間形成に及ぼす影響が大きい。毎日の寮生活を通して連帯意識を深め、集団生活の規律を重んじ、責任と義務をもつ公共社会人としての考え方や行動の形を身につけた人間となることを図る。</p> <p>(5) 国際人の視野と感覚 経済のグローバル化が進む中で、開拓と国際協調の精神を持った国際社会で活躍できる広い視野と感覚を持つ健全な人間の育成を図る。</p>

2 平成 26 年度の重点目標と達成計画

平成 26 年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>1) 学園財政の黒字化</p> <p>2) 入学者数の定員充足</p> <p>3) 農場各科生産目標の達成</p> <p>4) 100%の就農・就職率</p> <p>5) 建設機械関連資格の学内取得化</p>	<p>1) 学園財政の黒字化 設備投資と販売のロスを最小限度に抑えつつ、学生納付金と農場生産物販売額、および資金運用収入を高めるよう取り組む。</p> <p>2) 入学者数の定員充足 オープンキャンパス、学校案内書を充実させ魅力を十分伝えられるようにする。</p> <p>3) 農場各科生産目標の達成 学生数減少の中でも学生への過度な負担なく、平年並みの生産実習を行えるよう、職員体制をとる。</p> <p>4) 100%の就農・就職率 インターンシップの受け入れ先の拡大および就職相談会の充実。</p> <p>5) 建設機械関連資格の学内取得化 日立建機の各技能講習：「車両系建設機械」「小型クレーン」「フォークリフト」「ガス・アーク溶接」の講習会をカリキュラムに取り入れる。</p>

最終更新日付

平成 27 年 7 月 27 日

記載責任者

教学部長 高林

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育基本計画を定め、その理念を職員、学生・保護者に伝えている。</p> <p>教育課程、授業計画は関連業界等からの協力を得て作成している。</p>	<p>教育理念を職員、学生・保護者に周知させるため適宜工夫の必要がある。</p>	<p>生産実習の徹底を図るため農場を札幌市と日高町に置き、経営実習の考えのもと 4 月から 10 月末までを前期実習期間と設定し、早朝から夕方まで 1 日を通して生産実習を行う。11 月から 3 月末までを後期とし、農場経営と学習の両立を図るための学科授業体験で得た断片的知識を系統化させる講義期間とする。</p> <p>全寮制度とし、集団生活の中から規律を重んじ、責任と義務をもつ公共社会人としての考え方や行動の形を身につけるよう図っている。</p>

最終更新日付	平成 27 年 7 月 27 日	記載責任者	教学部長 高林
--------	------------------	-------	---------

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育及び農場の運営方針は文章化して、明確に定めている。運営方針は教職員自己評価を行い、浸透度を確認している。</p> <p>単年度の事業計画のほか、中期計画（3～5年程度）を定めている。事業計画において予算、事業目標等は明示してあり業務分担等を明確にしている。理事会、評議員会は、寄附行為に基づき適切に運営しており問題はない。</p> <p>学校運営に必要な事務及び教学組織のほか、実習農場を運営する農場部や生産物の加工販売、地域連携を図る事業部を整備しており、現状の組織を体系化した組織図等を整備している。</p> <p>各部署の役割分担、組織目標等は農場生産計画書、教育計画書で明らかにしているが、規程はない。</p> <p>採用基準・採用手続きについての規程等はない。</p> <p>給与規程は整備して、適切に運用している。</p> <p>昇任・昇給および人事考課制度の規程等はない。</p> <p>教務・財務・農場及び事業各部において意志決定の権限は明確であるが、小規模校であるため規程などは整備していなかったが、定期的な意志決定会議において、方針を明らかにしている。</p>	<p>小規模校であるため、職員採用方法や昇進基準などを定めた規程を持たず運営してきたが、現在は教職員の質を問われており、組織的な質の向上を規程で明らかにしていかななくてはならない。</p> <p>各部署の役割を規程で明らかにする必要がある。</p>	

最終更新日付

平成 27 年 7 月 27 日

記載責任者

教学部長 高林

2-2 (1/1)

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の教育理念に基づいた教育を展開していく教育基本計画を定めている。</p> <p>農業技術ばかりでなく、勤労観や農業人としての職業観を養い精神的な向上をも期待した、農場実習中心の教育により、求められる社会人としての基礎的な資質能力を農作業という「自然体験」を通して身につけさせている。</p> <p>また、時間に厳しい寮生活の中で、社会人としての資質能力の育成も図る事ができている。</p> <p>実習では各科ごとに理念と教育目標に合わせて学習指導要綱を定め、冬期講義では授業ごとにシラバスを作成し、到達目標を示している。</p> <p>成績評価基準は教務規程に明示しており、他の教育機関の履修認定は学則に規定しているが、学生の成績評価基準の理解がさほど得られていない。</p> <p>資格試験取得のための環境整備も行っているが取得希望者と合格者数が減少している。</p>	<p>前期実習期間中の学習を進めるためにも、資格試験の活用や企業等との連携実習、後期講義期間の講師による現地ゼミナールなどの充実を図る。</p> <p>授業評価の教授力向上やより良いカリキュラム作成へ繋げていく。</p> <p>卒業生の卒後の状況把握を進め、進路指導方法の改善に努める。</p> <p>保護者との連携を深め成績評価基準の理解や、資格取得についての長期的視野に立った支援を得られる環境を作る。</p>	<p>5月から9月末まで朝5時からの早朝実習を職員、学生全員で行っている。日中の作業を含めた長時間の労働実習により、勤労観や農業人としての職業観を養い、精神的な向上を期待している。</p>

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>農業現場関連の求人は、一般企業のような前年度春エントリーといった形ではないため、個々の学生の希望に合わせて随時行っており、その結果ほぼ全ての学生が農業関連に就職・就農している。</p> <p>卒業生の卒後の実態調査等を行っておらず、把握が不十分である。</p> <p>資格取得に向け学内において作業機械関連資格の取得が可能となるよう整備しており、一部の国家試験等に関しても特別講座を開講しているが、取得は義務でなく、受講資格が高額な者も多いため希望者数が伸び悩んでいる。</p>	<p>就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどのほか、アンケートによる実態把握が必要である。</p> <p>資格取得の方針設定を、保護者を含めた形で行い、長期的な視点に立った資格取得を実施できる環境を作る。</p>	<p>農村での人材不足が急速に進んでおり、求人数は年々増加している。しかし、給与などの雇用条件ばかりでなく、個々の学生の将来設計に沿う進路指導のあり方の検討が今後さらに必要である。</p>

最終更新日付

平成 27 年 8 月 1 日

記載責任者

教学部長 高林

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は全寮制を採っているため、学生支援のための取り組みは多く実施している。生活の場である寮生活については、食事内容についての改善希望が多く寄せられた。</p> <p>心身の健康の維持に病院やカウンセラーとの連携が重要であるが、近隣に数多くの病院があり小さい病院では、病院ごとに専門が異なったり、大病院は緊急時の対応を迅速にしてもらえないなどといったことがあるため、状況に合わせた対応をしている。</p> <p>留学生の受け入れ、相談体制も今年度より整備した。</p> <p>経済面では個々の事情に合わせて、納付金の分納が可能となるよう規程を定め、奨学金制度や給付金制度も利用できる環境を整えている。</p> <p>就職等進路に関する支援組織体制は全学的に取り組んでいるが、近年は非農家出身学生の増加に伴い職業観の育成、就職先開拓などの支援の更なる充実が求められている。</p>	<p>保護者との連携強化のため、学校から家庭への連絡を定期的に行う仕組みが必要。</p> <p>病院との連携を図るため病院ごとの緊急時の対応を事前に話し合う機会を持つ。</p> <p>経済支援関連の説明会を年に複数回持つ。</p> <p>インターンシップの更なる充実を図り就職への意識向上を図る。</p>	

最終更新日付

平成 27 年 7 月 25 日

記載責任者

教学部長 高林

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>札幌市内に 60ha と、日高町に 128ha の農場を保有し、学生寮と十分な実習農場を整備し、道内では他にみられない花き科や果樹科、また耕作機械科も含む独自のカリキュラムを有し、生産物を毎日販売できる直売所も常設しているといった恵まれた教育環境で教育活動を行っている。</p> <p>しかし、学園創立 85 年を迎え、学生寮は 25 年、校舎は 50 年が経過しており、中長期的な施設の整備が必要となってきた。</p> <p>また、農業の社会情勢が大きく変わりつつあり、少子化に伴う大規模化と機械化、技術の急速な革新が進み、社会の求める人物像も様変わりしてきている。そして、学生数の減少に伴い、事故の増加も見られ、教育環境の高度化と機械化、安全性の配慮が求められている。</p>	<p>施設・機器の計画的な整備、修繕、更新を進める必要がある。</p> <p>また、機器の名称や取り扱いマニュアルの掲示等安全対策はさらに行わなくてはならない。</p> <p>快適な学習環境の整備も優先的に行っていく。</p>	

最終更新日付

平成 27 年 8 月 1 日

記載責任者

教学部長 高林

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集活動は HP と学校案内を用いた情報発信を柱として、進学相談会や就農相談会等への積極的な参加と、オープンキャンパスの実施という形で行ってきたが、近年は定員割れが続いている。</p> <p>大学や短大、都道府県立の大学校なども定員を割り、門戸が広がっていることも、本校の入学希望者減少の一因であるが、農業関係への就職や町村の就農希望者受け入れ制度の充実などにより、選択肢が広がっていることもあげられる。</p> <p>外的要因の他に本校の魅力を高められていない内的要因も挙げられる。</p>	<p>学校見学会の実施や、入学試験日程の見直し。 高校訪問などの教員への説明機会の増加。 学内環境整備の強化。 HP の見やすさの改善。</p>	<p>全寮制度、朝 5 時からを含む長い実習時間は在学生や卒業生にとっては、規律有る生活と自己鍛錬が自身の向上につながる貴重な経験でもあるが、入学を考える高校生にとっては、魅力になりにくいという面もある。</p>

最終更新日付

平成 27 年 8 月 3 日

記載責任者

教学部長 高林

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>応募者数・入学者数が減少し、定員充足率も5年ほどの間に徐々に悪化しているが、財政の見直しにより学園全体の収支はプラスとなっているが入学者の減少は財務の面からも大きな問題であり、最大の検討課題である。</p> <p>設備投資は予算の範囲内で行い、負債は返還可能の範囲で妥当であるが、設備の老朽化が進んでいるため、計画的な更新が必要である。</p> <p>職員の中・高齢化による人件費支出の比率が増加している。</p>	<p>応募者数の減少に対しては、広報活動方針及び予算配分から改善を図る必要がある。</p> <p>施設・設備投資は実習主体の教育を標榜していることから、安全を第一とし、生産実習に直結する部分から行っていく。</p> <p>俸給表の見直しによる人件費の圧縮を図っていく。</p>	<p>当校の財政については金利の変動に大きく影響される傾向がある。</p> <p>景気に左右されない財政基盤を作り上げなければならない。</p>

最終更新日付	2015年7月28日	記載責任者	川原 章
--------	------------	-------	------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設設備は設置基準、諸届等も適切に報告を行っている。</p> <p>寄附行為、学則、庶務規程等に加え、教務規程等の必要な諸規定の整備は適宜行っている。</p> <p>学校の開設したサイトの運営をはじめ、所有コンピュータの管理情報の漏洩には防止策を講じている。</p> <p>諸規則を変更し、自己評価と学校関係者評価を実施することとなった。</p>	<p>各評価結果の学校運営、カリキュラム改善への活用を進めていく。</p>	

最終更新日付

平成 27 年 8 月 1 日

記載責任者

教学部長 高林

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校施設・設備等を活用して実施する家畜人工授精師講習会を農協学校の学生や関連団体の職員の資格取得のために開放している。 高等学校等が行うキャリア教育等の授業「出前授業」の実施に教員等を派遣することを始めた。</p> <p>環境問題の解決に貢献するための活動として廃食油の回収とバイオディーゼルの製造を行い、学内トラックの燃料を積極的にバイオディーゼルの燃料に転換している。</p> <p>今年度は留学生を受け入れ体制をつくり、中国からの留学生を入学させた。具体的には、札幌に在住し日本の会社で働いている中国人に相談員となってもらい、定期的な面談を実施し、職員の相談も受けってもらえる様にし、意思の疎通が円滑に図れるようにするなどした。</p>	<p>より多くの職員が出前授業を実施出来るよう環境を整えていく。</p>	

最終更新日付	平成 27 年 8 月 3 日	記載責任者	教学部長 高林
--------	-----------------	-------	---------

4 平成26年度重点目標達成についての自己評価

平成26年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1) 学園財政の黒字化</p> <p>2) 入学者数の定員充足</p> <p>3) 農場各科生産目標の達成</p> <p>4) 100%の就農・就職率</p> <p>5) 建設機械関連資格の学内取得化</p>	<p>1) 学園財政の黒字化。</p> <p>2) 入学者数の定員充足 35名の定員であるが、25名の次年度入学者を迎えることとなった。</p> <p>3) 農場各科生産目標の達成</p> <p>4) 100%の就農・就職率 33名のうち1名就職を希望しないで卒業した者がいた。</p> <p>5) 建設機械関連資格の学内取得化 今年度は「車両系建設機械」「小型クレーン」「ガス溶接」の講習会を年間行事に組み込んで実施できた。</p>	<p>1) 学園財政の安定化。</p> <p>2) 入学者数の定員充足 入学試験受験者におけるオープンキャンパス参加者の割合が高いためオープンキャンパスの充実と高校への訪問を積極的に行い今年以上の情報発信を行っていく必要がある。</p> <p>3) 農場各科生産目標の達成 学生数減少の中でも学生への過度な負担なく、平年並みの生産実習を行えるよう、職員体制をとる。</p> <p>4) 100%の就農・就職率 インターンシップの参加者の増加を図り、職員間で情報共有をしつつ積極的な進路開拓につなげる。</p> <p>5) 建設機械関連資格の学内取得化 作業機関連の資格は受講料が高く、受講者数が少なく開催が危ぶまれるものもあったので、受験しやすい環境作りが必要である。具体的には入学時に保護者からの積極的な支援が得られる仕組みが必要である。</p>